

各関係機関の長 殿

鹿児島県病虫害防除所長

平成28年度 技術情報第8号（チャの炭疽病）について（送付）

このことについて、下記のとおりとりまとめましたので送付します。

### 平成28年度 技術情報第8号

- 1 対象病害虫 炭疽病
- 2 対象作物 チャ
- 3 対象地域 県本土及び熊毛地域
- 4 情報の内容

一番茶摘採残葉や二番茶芽に炭疽病の発生が多く認められる。今後、梅雨期の降雨により発病が増加し被害が拡大することが懸念されるので、「やぶきた」など発生が多いほ場では三番茶萌芽～1葉期に薬剤防除を実施する。

#### 5 情報の根拠

- (1) 5月14～24日に県内19地点全34ほ場で実施した巡回調査の結果、発生ほ場率が55%（平成29年29%）と平成に比べて高く、 $m^2$ 当たりの発病葉数も18.3枚（平成3.5枚）と平成に比べて多かった（図1）。
- (2) 県農業開発総合センター茶業部の定点無防除園における発病葉数は、5月以降、増加傾向にあり、5月下旬の調査では $m^2$ あたり112枚（平成87.0枚）と平成に比べて多かった（表1）。
- (3) 例年、一・二番茶芽での発生は少ないが、本年は4月下旬から5月上旬に降雨が多く、気温も高かったことから、新葉へ感染が起こりやすい気象条件であった。
- (4) 鹿児島地方气象台による向こう1か月の天候予報（平成28年6月2日発表）では、九州南部の降水量は、「平成並みか平成より多い」と、本病害の発生に好適な条件が予想されている。

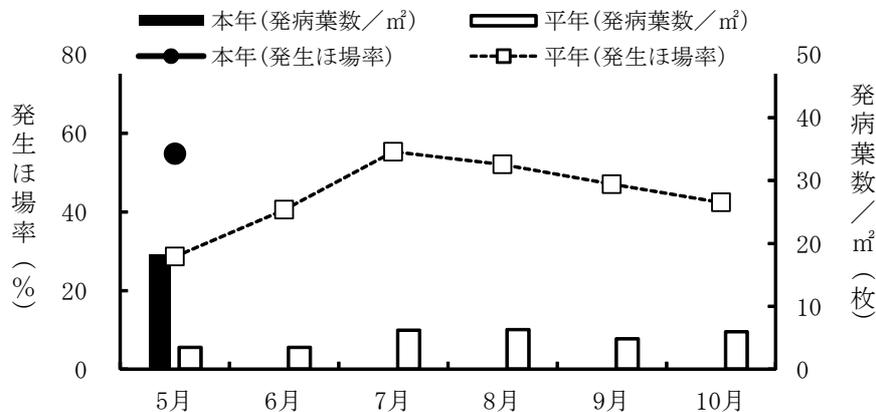


図1 平成28年5月の炭疽病の発生ほ場率及び発病葉数  
※病虫害防除所が県内19地点（全34ほ場）で行った巡回調査結果

表1 農業開発総合センター茶業部（定点無防除園）における炭疽病の発生推移  
（平成28年4月上旬～5月下旬）

（単位：枚）

月	旬	本年	前年	平年
4月	上	4	11	80.1
	中	1	7	45.4
	下	0	10	20.0
5月	上	15	402	56.5
	中	45	169	85.3
	下	112	165	87.0

※表中の数値は㎡当たりの発病葉数

## 6 防除対策及び防除上注意すべき事項

- （1）発病葉の多いほ場では三番茶芽生育初期の防除を行う。
- （2）三番茶芽の上位葉は収穫されるが、摘採残葉として残る下位1～2葉を守るために萌芽～1葉期に予防防除する。
- （3）三番茶芽の生育期に降雨が続く場合は感染・発病に十分注意する。
- （4）「やぶきた」等の本病に弱い品種は特に発生に注意する。
- （5）三番茶期は、萌芽から摘採までの期間が短いので、薬剤の使用時期（摘採前日数）に十分注意する。
- （6）多発状態の続く茶園では整・剪枝（深刈り等）により伝染源を除去する。